



第2回 プラスチック資源循環合同会議

一般社団法人
日本フランチャイズチェーン協会 (JFA)

(一社)日本フランチャイズチェーン協会の概要



- 目的：フランチャイズ・システムの健全な発展を図る(1972年設立)
- 活動：調査研究、規範策定、普及啓発(広報活動)、指導・相談(FC相談)、社会貢献(防犯・防災対策、環境対策)、会員交流、国際業務等
- 構成：フランチャイザー及び当協会の趣旨に賛同する企業

業種分類	業 種
外 食 業	ファストフード、居酒屋、コーヒーショップ等
小 売 業	コンビニエンスストア、自動車関連、洋菓子等
サ ー ビ ス 業	レジャーサービス、リース・レンタルサービス

- 会員数：正会員102社、準会員15社、研究会員110社、賛助会員290社 計517社(20年1月)
- 全国におけるフランチャイズチェーンの市場規模及び店舗数(2018年度)

項 目	フランチャイズ総計	うち、コンビニエンスストア
総売上高	26兆2,118億円(16兆208億円)	11兆2,635億円
チェーン数	1,328チェーン(363チェーン)	18ブランド
総店舗数	26万4,556店(13万5,035店)	58,340店

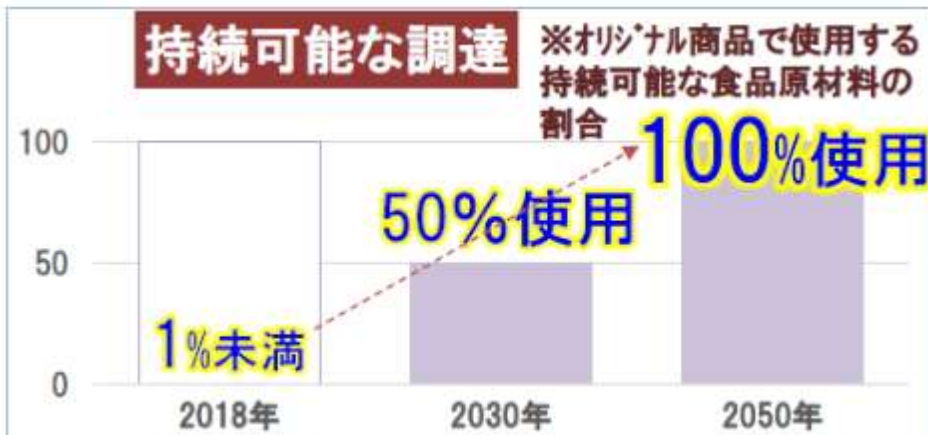
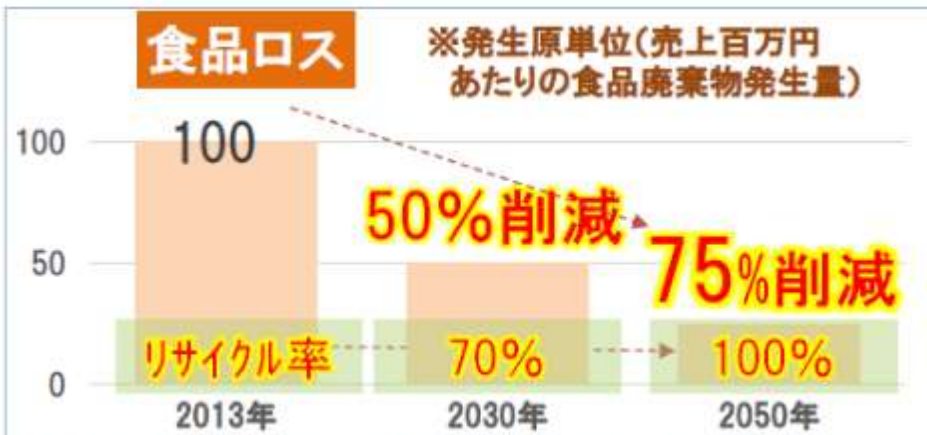
チェーン名	店舗数	チェーン名	店舗数
セブン-イレブン	20,876店	ミニストップ	2,197店
ファミリーマート	16,340店	ローソン	14,659店
		コミュニティストア、セイコーマート、ポプラ、デイリーヤマザキ	4,178店

■ セブン&アイグループ環境宣言



7&iグループでは、地球環境の保全や持続可能な社会の実現に向けて
4つのテーマを定め、2050年までに目指す姿を設定

2030年の目標・2050年の目指す姿



2030年目標の実現のみならず、2050年に向けより高い目標の達成に向け取り組みを推進

■ セブン&アイグループ環境宣言(プラスチック対策)

1. セブンカフェの包括的取組み

カップ

- 本体:間伐材配合紙
- ふた:軽量化
- ふた:リサイクル原料

間伐材配合紙

マドラー

- 梱包変更

アディティブス

- スティックシュガー
- シロップ
- コーヒーフレッシュ

ストロー

- バイオマス原料配合
- サイズ変更
- 外袋厚みダウン

コーヒーフィルター

- バイオマス原料配合
- 麻使用

本体:リサイクルシート

ふた:リサイクル資源

2. リサイクルPETの活用

お買い物でエコ参加
この商品の容器はセブン&アイグループが店頭で回収しているPETボトルを含むリサイクルPETフィルムを使用しています。



3. 間伐材の活用

お買い物でエコ参加
この商品の容器はセブン&アイグループとセブン・イレブン記念財団が森林保全活動を行う「セブンの森」から伐採した間伐材を含む、30%以上の国産材を使用しています。



CO₂削減

新規素材の検討

1. 森林認証紙

2. リサイクルPETラベル



etc

セブンプレミアムの環境配慮

2017年度 **950**アイテム ※ 構成比約3割

2019年度末までに全フレッシュフード・7プレミアム商品が環境配慮対応に

※ ストローの例



2019年8月～
ストローを使用しない
飲み口のついた
フタに変更



2019年11月～
(紙製ストロー)
関東・東北
(生分解性プラ)
上記以外地区

セブン&アイグループ環境宣言(プラスチック対策)

Replace

森林認証紙

適切に管理された森林資源を使用した紙



※SGEC(緑の循環認証会議)から掲載の許可を取得しています。

間伐材

森林を健全に保つため間引きした木材を使用した紙



バイオマスインキ

印刷するインキに植物由来樹脂を添加



バイオマスフィルム

フィルム素材に植物由来樹脂を使用



Reduce

薄肉化

資源の使用量削減



環境対応ラベル

環境対応インキ、リサイクルPETなどを用いたラベル



脱アルミ箔

リサイクル可能な紙バックへ変更



リサイクルPET

ペットボトルをリサイクルしたフィルム



Recycle

品質への影響やコストなども確認しながら、可能なものから順次拡大を実施

■ 廃プラスチックを取り巻く環境

中国等の輸入規制



2017年ペットボトル
 国内販売量 587千t/年
 回収量 541千t/年
輸出量 252千t/年 → 
 リサイクル量 498千t/年
 リサイクル率 84.8%
 (PETボトルリサイクル推進協議会)

国内リサイクル施設 処理能力超過



国内ペットボトル処理能力
 推定 約500千t/年
 処理能力の不足による
 リサイクル処理単価の高騰
焼却・埋立の増加
不法投棄の増加の恐れ

海洋ゴミ 生態系破壊



年間800万tの
 プラごみが海へ流入
 「2050年までに世界の海の
 魚の総重量を海のプラごみ
 の総重量が上回る」予測
 (世界経済フォーラム・WEF)

ペットボトルの「国内」資源循環が急務

海洋ごみ対策



プラスチック製
ストロー/カップ/レジ袋の
使用に対する批判

悪いのはポイ捨て
プラスチックが悪者に

海洋ごみの原因



海に投げ込む人はいない。
ポイ捨てが、側溝から河川に
陸域から海に流れていく

ポイ捨ての防止と
陸で止めることが重要

7-11の販売者責任



大量のペットボトルを
販売する企業としての責任
安全性・保存性・軽量

ペットボトル素材以上に
優れた容器はない

発生抑制と同時に、海に流れ込む廃プラスチックを陸で食い止める必要性

■ セブン-イレブンの店頭を使ったペットボトル回収(循環へのチャレンジ)

【目的】

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ① 廃棄物の減量 | … 最終処分場の逼迫 |
| ② 資源の有効利用(資源の国内循環化) | … 回収PET資源の半分は輸出 |
| ③ CO2の排出量削減 | … 石油由来よりも63%削減 |
| ④ 販売量日本一チェーンとしての責任 | … 大量のペットボトル飲料を販売 |
| ⑤ 消費者参加型リサイクルの推進 | … 「リサイクルの日常化」を国民運動に |

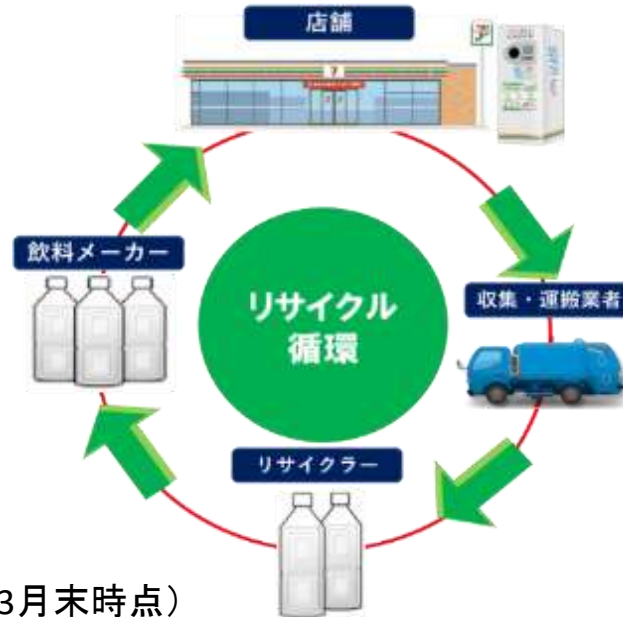
セブン-イレブン店舗設置台数: 355台

2017年12月～
東京・埼玉: 301店舗

2019年06月～
東大和市: 14店舗

2019年09月～
沖縄県: 40台

2020年～
その他 約500台を目標に
(2020年3月末時点)



■ ペットボトル回収機の設置

グループ全体で820台のペットボトル回収機を設置

19年度 **9,800**トン、約**3.6**億本の
ペットボトルを回収

(国内ペットボトル販売本数の約**1%**に相当)

【ペットボトルの圧縮機能】

回収機の投入口に内蔵されたセンサーで、飲み残しの多い物やペットボトル以外の材質のものなど、規格を満たさないものを除去し、約1/3～1/4に圧縮。



投入前



投入後

圧縮することで効率の良い運搬が可能
(回収機で選別・圧縮・減容処理)

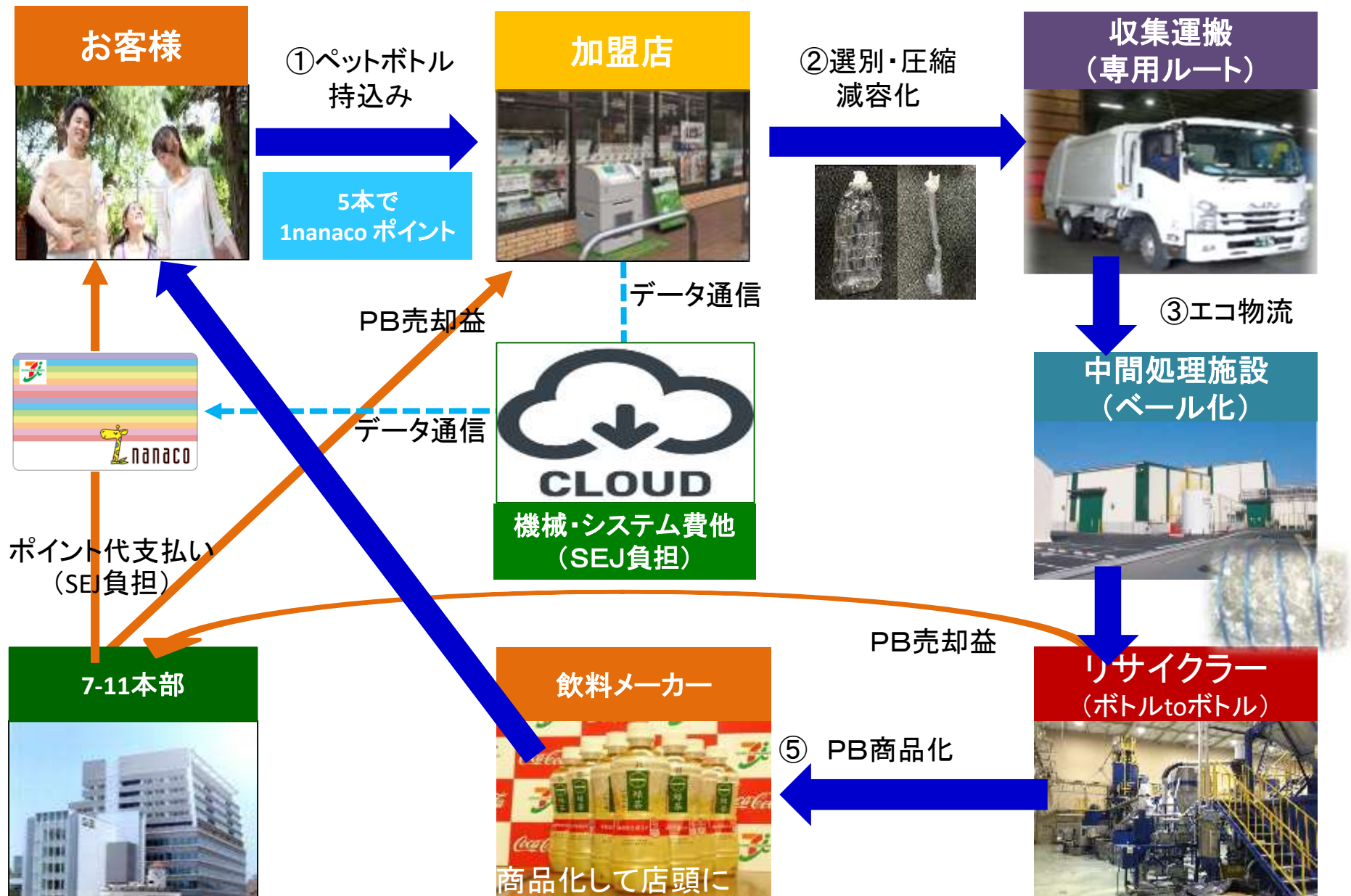
質のよい資源を回収

店舗にて保管



選別・圧縮することで、運搬コスト及びCO2排出量の削減にもつながる

■ ペットボトル回収の基本スキーム図



行政との連携スキーム



<p>利用者 》洗浄・フィルム キャップ除去</p> <p>本部 》nanacoポイント (PET5本で1P)</p>	<p>行政 》PR、周知</p> <p>店舗 》運用・保管</p> <p>本部・日本財団 》機器設置</p>	<p>収集運搬業者 》収集・一次運搬</p> <p>》中間保管拠点</p>	<p>リサイクラー 》異物除去 洗浄・選別 破碎・溶融 再資源化</p> <p>プリフォーム 》ボトルtoボトル</p>	<p>メーカー 》製品化</p> <p>店舗 》仕入れ・販売</p>
---	--	---	---	--

使用済みペットボトルはペットボトルに戻すことで、理論上、循環の繰り返しが可能

■ 行政との連携(目指す姿)

● 市民運動に

利用者



店舗



街と海をきれいに



身近なコンビニがペットボトルのリサイクル拠点として地域貢献

● 産官民で地域事業を共創

【それぞれが、今出来ることをする】

- ・行政 : 市民への事業周知
適正排出の広報活動
- ・市民 : ひと手間でも、資源活用に協力
- ・日本財団 : ムーブメント・設置支援
- ・セブン店舗 : 市民とのコミュニケーション・回収保管

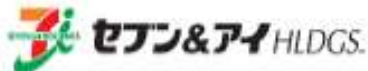
【みんなでうれしい未来をつくる】

- ・行政回収量の削減・適正排出場所確保
- ・市民の利便性や環境意識の向上
- ・資源の有効活用、循環型社会の構築
- ・よりきれいな街、川、海の実現
- ・SDGsの推進と持続可能な社会の構築

ペットボトルのリサイクルを通じて、資源を大切にすることを育む市民運動に

再生ペットボトルを使ったオリジナル商品

NEWS RELEASE



日本コカ・コーラ株式会社
株式会社セブン&アイ・ホールディングス
2019年6月5日

**“世界初”、店頭で回収したペットボトル 100%使用
完全循環型ペットボトルリサイクルを実現**

**セブンプレミアム×ー(はじめ)
「ー(はじめ)緑茶 ー日一本」**

6月10日(月)より、全国のセブン&アイグループ各店で発売

日本コカ・コーラ株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:ホルヘ・ガルドゥニョ)と株式会社セブン&アイ・ホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:井阪 隆一)は、6月10日(月)より、2019年5月の発売以来ご愛顧いただいている共同企画商品「ー(はじめ)緑茶 ー日一本」(機能性表示食品)を、セブン&アイグループの店頭で回収したペットボトルをリサイクルした完全循環型ペットボトル(※1)を使用してリニューアルし、全国のセブン・イレブンやイトーヨーカドー、ヨークベニマル、ヨークマート、そごう・西武のセブン&アイグループ約21,400店(2019年5月末)にて順次発売いたします(※2)。

本商品には、お客様のご協力によりセブン&アイグループの店頭で回収したペットボトルを使用した再生PET樹脂を100%用いた、リサイクルペットボトルが使用されています。特定の流通グループの店頭で回収したペットボトルを100%使用したリサイクルペットボトルを原材料として使い、ふたたび同一の流通グループにおいて商品として販売する取り組みは、世界で初めて(※3)となります。

両社は、今後も地球環境に配慮した商品開発とリサイクルスキームの構築を通じ、循環型社会の実現に向けて協力してまいります。



井阪社長・ホルヘ社長の記者会見



テレビ局の報道

No.	日付	媒体名	番組名
1	2019/6/5	NHK	首都圏ニュース845
2	2019/6/5	TBS	Nスタ
3	2019/6/5	テレビ東京	ゆうがたサテライト
4	2019/6/5	テレビ東京	WBS
5	2019/6/5	フジテレビ	FNN Live News α
6	2019/6/6	テレビ朝日	グッド! モーニング
7	2019/6/6	TBS	はやドキ!
8	2019/6/6	テレビ東京	Newsモーニングサテライト

世界初の取り組みに、多数の報道陣。「ボトルtoボトル」への周知が高まる



5/11,12
G20新潟農業大臣会合への出展



5/22 国連環境計画UNEP大阪シンポジウム
6/05 ボトルtoボトル記者発表



6/15,16
G20軽井沢環境大臣会合への出展



6/28,29
G20 大阪サミットへの出展

消費者と小売と飲料メーカーが一体になった取り組みを世界が評価

■ 役割分担と拡大にあたっての課題

お店の役割

- ① 回収袋の交換(1日2~3回程度)

ペットボトルが満杯になると機械が停止するので、定期的な交換が必要

- ② 集まったペットボトルの保管(回収まで)
- ③ 機械まわり、投入口の清掃
- ④ 機械故障時の対応(メーカーへの連絡等)
- ⑤ ごみ袋費用の負担
- ⑥ 電気代(2割)の負担

本部の役割

- ① 回収機の購入・設置費用負担
- ② 機械のメンテナンス費用の負担
- ③ ペットボトル回収費用の負担
- ④ nanacoポイント費用の負担
- ⑤ 電気代(8割)の負担
- ⑥ 本事業のPR、啓蒙活動
- ⑦ 設置店舗の支援

課題

- ① 行政による解釈の違いにより、自治体ごとに確認が必要「有価物」or「廃棄物」
- ② 収集運搬コストの負担(店舗~1次集積所~中間処理~リサイクラー)
- ③ 回収機設置費用及びメンテナンスコストの負担
- ④ リサイクル施設の不足
- ⑤ 上記、加盟店の負担
- ⑥ 消費者の理解と協力

特区や許認可などの行政支援

課題解決のための協力がないと持続可能性が担保できない